

ゴミ非常事態宣言

市民の暮らしへの緊急の訴えです。

「ゴミ減量先進都市」へ、ゴミを「挑戦」しましょう。

平成11年2月

この度、不燃ゴミ焼却場の次期埋立処分場として予定していた名古屋港西1区埋立事業を中止することとなりました。快適で清潔な市民生活の確保と自然環境の保全、これらの両立をいかにして図るべきか、熟慮に熟慮を重ねた末の苦渋の決断です。

決断を終えた今、新たな埋立処分場の確保と徹底的なゴミ減量という二つの大きな課題に直面しています。あと2年少々、平成13年度の初めには愛岐処分場が一杯になると見込まれる一方、旧南陽工場の操業停止など、埋立・焼却の両面で処理能力の限界を迎えているからです。新たな埋立処分場の確保については、国・県などのご協力を仰ぎながら、名古屋市の全力をあげて取り組んでおります。一方、徹底的なゴミ減量については、市民・事業者の皆さまのご協力なくしては達成ができません。

本市は、30年ほど前にも深刻なゴミ問題に直面しました。当時はゴミの7割を埋め立てていたからです。この時は、可燃ゴミの全量焼却という機械力に頼って乗り切りました。しかし、埋立処分場を市内に求めることのできなくなった今日、いよいよ、ゴミを出さないうライフスタイルの確立という根本的な課題に、正面から向き合わなくてはなりません。

ゴミ減量の基本は、「二つ」があります。一つは、ゴミの原因を減らすこと、もう一つは、リサイクルを進めることです。

名古屋市は、空きびん・空き缶収集の全区実施、プラスチック製容器包装の分別収集などのリサイクルシステムづくりに全力を注ぐとともに、市民による資源回収活動への支援、事業系ゴミの全量有料化など、ゴミ減量の動機づけの強化、そして、一事業者として自らの出すゴミの徹底的な削減に取り組んでいます。

市民の皆さまに対して、率直にお願いたします。チャレンジ100を果敢して下さい。すべてがなくなるものはない、勇気をもって断る、リサイクル商品を避ける、分別とリサイクルマナーを守る、それをお願いいたします。そして身近な方と協力して、どんな小さなことでも結構です。新しいリサイクルのネットワークづくりに取り組んで下さい。

事業者の皆さまに対して、率直にお願いたします。事業活動に伴うゴミの削減と資源源化はもとより、すべてがなくなるものを作らない、売らない、買わない、そして20世紀型大規模社会を形作る創造的な挑戦者として、企業ノウハウを注ぎ込んで下さい。

従来のが古屋市の取り組みに対して様々なお叱りをいただいております。そんな大変ならなせもっと早く訴えなかつたのか、そんなご意見もいただいております。率直に申し上げて担当者は、出されたゴミを処理するという職務に対して美に律儀に取り組んできたと思いません。しかし、現状を率直に市民にお伝えし、大胆にご協力をお願いするというのが名古屋市民全体として大変な遠慮があった、そう感じております。

そつした反省を踏まえて切にお願いたします。あと2年、今世紀のうちに少なくとも20万トンのゴミ減量を実現し、パブル網以前のゴミ量を減らしたのです。そのために市民・事業者の皆さまのご協力と創造的な取り組みを、切に切にお願ひ申し上げます。そして新しい世紀を、「ゴミ減量先進都市」に向けて邁進していきましょう。